

第5章

計画推進に向けた具体的な取り組みの方向

計画がめざしている方向やみんなの思いを具体的な行動へとつなげるため、計画推進当初から、パートナーシップの構築のための仕組みを整えたり、段階的にパートナーシップによる取り組みを進めていくことが期待されます。

本計画を実りあるものとし、パートナーシップにもとづく取り組みを広げていくために、計画の策定当初、すなわち「実施計画」を策定していく過程で検討すべき重点項目として、以下のような具体的な取り組みのテーマを掲げます。

取り組みのテーマ1：「(仮称)環境市民会議」の設置

《取り組みの意義》

環境基本計画の推進とともに、環境の保全に関わるさまざまな主体によるさまざまな取り組みの促進に向けて、関係する主体が集い、出会い、話し合っ、パートナーシップによって取り組みを実践することができる場や機会を提供するための仕掛けとして、「(仮称)環境市民会議」を設置することが必要です。

また、さまざまな取り組みを進めていくために必要な情報整備を側面から支援するために、環境に関する情報を収集、提供、発信する場としての役割を担うことも期待されます。

《取り組みの方向》

計画策定後、本計画の推進を担う組織を中心とした関係主体の間において検討を行い、できるだけ早急に設置準備に向けた手続きを検討し、取り組みに着手する必要があります。

取り組みのテーマ2：行政の率先的な環境配慮行動の推進

《取り組みの意義》

狛江市域の中で、行政が事業者として活動することにより環境に対して与える影響は決して小さなものではありません。消費者という一面から考えても同様です。

したがって、行政が環境に配慮した行動を推進することは、環境への負荷の削減に効果が期待できるとともに、こうした行政の率先的な姿勢は、市民、事業者といった関係主体の環境配慮行動を促すことにもつながっていきます。

《取り組みの方向》

計画策定後すみやかに「(仮称)狛江市環境基本計画推進本部」「狛江市環境基本計画庁内委員会」を中心として、行政の環境配慮について全庁的に検討を行うことが可能な体制を整え、早期にアクションプランを策定し、行動を実践する必要があります。

アクションプランにとりあげることを想定している重点的取り組みとして次のようなテーマ案を掲げます。

- ISO14001の認証取得
- 庁内省エネルギーの推進
- 庁内ごみ減量化運動の推進
- グリーン購入の推進
- ハイブリッドカーの導入
- 環境に配慮した公共施設の建設の推進

取り組みのテーマ3：パートナーシップによる具体的な取り組みの推進

《取り組みの意義》

取り組みのテーマ1であげた「(仮称)環境市民会議」の設置など、パートナーシップの基礎となる仕組みを整えていくことは、本計画の推進において非常に重要です。しかし、計画ができたからと言って、そのような仕組みがすぐに整うわけではありません。また、そうした仕組みが整うのを待っているだけでは、私たちを取り巻く環境の悪化をいとめ、改善し、かつ自然と共生しながら誰もが住みよいまちをつくっていくことはできません。

したがって、仕組みを整えると同時に、みんなが思いを話し合い、実際に行動してみることができ場や機会を確保することが必要です。そのために取り組みのテーマ3を掲げます。

ただし、この取り組みにおいては、はじめから事業の青写真を描いてしまうのではなく、実践の中で、取り組みのテーマ、取り組み方、内容、仕組みなどを繰り返し検証することにより、取り組みをより適切で、効果的なものにしていくといった柔軟性が必要です。こうした柔軟な取り組みの積み重ねによって、市民、事業者、行政、あるいは地域などの間でさまざまなネットワークが生まれ、それらが次第に広がりを持ち、パートナーシップが構築され、成熟していくことが期待できます。

《取り組みの方向》

具体的なフィールドをもうけ、そこでの実践をととしてパートナーシップの芽を育てていきます。

テーマは、市民、事業者のニーズ等に照らし合わせながら、パートナーシップという視点や、狛江市の環境を考える上での優先度、実施の可能性等をふまえて選択します。

こうした趣旨をふまえ、当初の取り組みとして次のようなテーマ案を掲げます。

水辺の^{がっこう}楽校プロジェクトの実施

【取り組みの概要】

- ねらい：子ども達の水辺遊びを支える地域連携体制の構築
自然環境あふれる安全な水辺の創出
- 特徴：これまでのハード優先の取り組みではなくルールづくりなどソフトが中心
遊び・楽しみという子どもの視点を中心
地域やそこに暮らす人が主役
- 仕組み：登録市町村制度への登録
 - ➡地域のNPO、ボランティア団体等を含めた推進協議会の設置
 - ➡協議会による「水辺の楽校」計画づくり
 - ➡取り組みの推進(取り組みへのソフト支援・ハード整備支援)